

しちかしゆくまち ゆのはら
七ヶ宿町湯原集落

「いのししバスターズ&雪室体験会」を実施しました

宮城県では、平成25年から平成28年までの4年間、中山間地域等の農作業を支援する「集落支援事業」として、大河原管内の七ヶ宿町干蒲・丸森町筆甫・丸森町耕野の3地区で援農ボランティア活動の支援を行ってきました。これまでの参加者は、4年間で延べ約600人となり、各地域では、この活動を通じて特産品の生産継続や、東日本大震災による風評被害の払拭に取り組んできました。

そして、平成29年度からは「農山村集落体制づくり支援事業」として活動地域を宮城県内全域に拡大し、中山間地域に限らず、農山村集落の活性化に向けて支援を行っています。

平成30年7月7日(土)に、七ヶ宿町湯原集落で獣害防止柵の設置をお手伝いするいのししバスターズと雪室体験会が開催されました。

県内外の会社員や大学生、地元の中学生など、28名の方に参加いただき、約1.4kmを設置しました。集落の方々もあわせると総勢60名での作業となり、交流を深めながら楽しく作業に取り組んでいました。

今回の設置場所は七ヶ宿町のブランド米である「源流米」や、特産品のそばを栽培している田んぼの周り。資材の運搬から設置まで、集落の方々と協力しながら3グループに分かれ、手分けして作業を進めました。



鉄筋を地面に打ち込み、ワイヤーメッシュと結束させていきます



この獣害防止柵は、ワイヤーメッシュ部分に触っても感電するため、イノシシだけでなくサルの侵入も防ぐ優れもの！





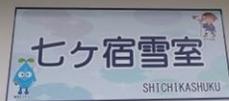
昼食は、七ヶ宿産の「源流米」を野菜を使った、地域の女性手作りのおいしいカレーライス。ごちそうさまでした！

午後からは、自然の雪の冷氣だけを利用した農産物保存庫「雪室」を見学。宮城県初の雪室施設で、2014年に完成。雪室で保存すると、鮮度が保たれるだけでなく甘みも増すといわれており、七ヶ宿では米やそば、じゃがいも等を保存し、「雪室ブランド」として販売しています。



想像以上の寒さに驚く皆さん

このマークが目印！



今回の活動を通じ、集落の方々は、こんなに人が集まってくれることに驚いた、とても助かった、と感謝している様子で、参加者の皆さんは、鳥獣被害がこんなに多いことを始めて知った、他では経験できない作業ができて良かった等、農業に触れる良い機会になったようでした。

湯原集落は、集落が主体となって農業生産や集落活動の維持に積極的に取り組んでいます。こうした活動を機に、七ヶ宿町の自然や農産物に関心を持っていただき、引き続き、湯原集落へ足を運んでいただければ幸いです。

参加していただいた皆様、ありがとうございました。

*この活動は、宮城県の「農山村集落体制づくり支援事業」の一環として行っており、宮城県ではこれからも農村集落や中山間地域の持続的発展を支援して参ります。

宮城県大河原地方振興事務所農業農村整備部